

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570104065		
法人名	医療法人 愛広会		
事業所名	グループホームおやま		
所在地	新潟市北区木崎754番地		
自己評価作成日	令和2年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成12年4月に開設されました。グループホームおやまは、2階建てとなっており、1階3部屋、2階6部屋のワンユニットとなっております。2階の入居者様は日常生活で階段昇降され、下肢筋力の維持に繋がっています。私たちのホームでは家庭的な雰囲気を大切に、一人ひとりに対し尊敬と尊厳を持って接する様に努めています。日々の生活の中で、各自に役割を持ち作業して頂いたり、レクリエーションや行事等に参加して頂き、グループホームの一員として元気かつ穏やかに過ごして頂ける場であり入居者様とご家族との繋がりの場となっております。温かみを感じ、安心して暮らして頂ける我が家グループホームおやまを見て頂けたらと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市郊外に、同法人が運営する介護老人保健施設や協力病院に隣接して開設されており、21年目を迎えようとしている。建物は2階建てで玄関脇には庭があり、民家風の造りとなっている。建物内も家庭的な雰囲気と利用者が縫った暖簾や作品も飾られており、自宅と変わらない環境の中で暮らせることが支援されている。事業所を運営する法人は、多くの介護事業所等を運営しており、バックアップ体制の中で安定した事業展開が出来ている。地域密着型サービス事業所としての認識の中で、地域行事に積極的に参加し地域との交流関係も拡大してきている。また、協力病院との連携をはじめ、専門医から運営推進会議にも参加協力を得る機会もあり、家族や参加した委員が認知症について学ぶ事もできており、事業所の力となっている。

職員は、利用者が健康で楽しく生きがいを持って暮らせるように日々アイデアや意見を出し合いながら、一人ひとりに寄り添い、思いを尊重することを大切にしている。毎日運動することで健康づくりを行い、食事が楽しみな利用者の思いに応じて食事作りや、おやつ作り、イベントなど、職員も一緒に楽しむことを基本に取り組んでいる。利用者の笑顔や笑い声が聞こえ、利用者同士の思いやりも会話から聞き取れるアットホームな事業所である。

2020年度はコロナ禍にあり、制限された暮らしの中でも様々な工夫を行い、利用者が楽しく過ごせるように取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に入る所に掲示しており、一人一人を尊厳、尊重し意に添える様作業提供等行ながら、楽しんで頂ける様支援を行っている。	事業所理念は、開設当初に当時の職員によって策定されたものである。玄関及び事務所に掲示し、3か月ごとに開催している職員会議の中で振り返りを行い、全職員が意識して日々のケアが実践できるように取り組んでいる。	理念は事業所の目指す方向性を示したものである。より地域密着の役割を考え、地域の一員として役割を担っていくためにも、利用者や来訪者にも目に入る高さへの掲示や、お便り等を活用して理念を発信する工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に民家は少ないが、地域の草刈りや行事に参加していたが、今年度はコロナ感染予防の為全て中止となっている。	集落とは離れた環境にある中で、地域行事に声をかけて貰い、公会堂で開催されるクリスマス会、新年会、笹団子作り、地域の公園の草取り作業に参加が出来る。また、音楽ボランティア等の慰問が定期化するなど交流が広がっている。近隣施設の広場では子ども達とふれあう機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会を同法人事業所と一緒にに行い、その際に地域の方へ認知症の方の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、グループホームの近況報告、行事報告又は入居者様の日頃の様子、ヒヤリや事故報告を行っている。今年度はコロナ感染予防の為文章のみの報告も有。	会議は、利用者・家族、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、他グループホーム管理者をメンバーに開催されている。日程によっては、専門医の参加も得て参加者で「認知症」を学ぶ機会となっており、対応方法などの助言を得ている。会議内容の報告は、参加されない家族にも送付し、共有されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り、困難事例等等相談している。それに伴い区役所への相談も行い対策を取っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の対応等についてはいつでも相談できている。また、福祉事務所職員等とも、状況に応じた連携が図られている。地域包括支援センター主催の包括会議においては事例検討を行い、質の高いケアを目指して、地域ぐるみで取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束を行ってはならない事を認識している。玄関の施錠については、7時～17時迄は開放されている。	「身体拘束廃止委員会」において日々のケアの中で不適切な対応が行われていないかを検証している。特にスピーチロック(言葉による行動制限)については、振り返る機会も多く、全職員が関係法令を理解し、身体拘束のないケアに努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に研修に参加し、職場会議の際に他職員に周知徹底しているが、今年度はコロナ感染予防の為研修に参加出来ていない。虐待はあってはならない事、通報の義務がある事を理解している。	2020年度は外部研修への参加はなかったが、管理者が資料を作成し、講師となって内部研修を実施している。管理者は職員の様子に気配りを行い、定期面接の他にも状況に応じて声掛けをするなど、職員が悩みを一人で抱え込むことがないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適正な支援が出来る様に併設施設の相談員と連絡を取り、学ぶ機会を持ち活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って十分に説明を行い、理解と納得をしたうえで契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはサービス担当者会議や面会時に意見や要望を聞き、入居者様には随時話が出来る雰囲気作りを行っている。	3か月に1回サービス担当者会議を開催し、利用者・家族から意見・要望を聞いている。また、法人全体で年に1回「お客様満足調査」としてアンケート調査を実施し、要望等の申し出ができる機会としている。これまでに寄せられた意見の中で、居室の蛇口が冷水のみから温水が使用できるようになる等の改善が図られている。利用者に対しては、日常の中でも要望等を言ってもらえるよう声掛けを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや会議にて意見交換を行っている。業務改善の必要性があれば、意見を取り入れて。法人としても自己申告書を用いて職員の要望を発信する事が出来る。	3ヶ月に1回の職員会議で積極的に意見交換が行われており、また、日々職員は提案や検討ができる体制にある。職員会議に向けて事前に課題提供をし、提案事項についての意見も事前に共有できる仕組みになっている。法人全体で職員の意向調査、人事考課における面談を活用して意見の吸い上げを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回人事考課があり、個々の努力や実績、勤務状況等を把握している。やりがいや向上心が持てる様に研修会参加のの勧めや、希望する研修会に参加出来る体制を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に参加できる体制が取られている。研修後は会議は等で報告会を行い、職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場会議や包括ケア会議、他施設の運営推進会議にも参加し、交流を図り情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ずご本人に見学をして頂いており、その際ご本人の思いも傾聴する様に努めている。入居後も不安なく過ごして頂けるようコミュニケーションを取る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に現在の様子を伺い、困っている事や要望等を聞いている。それに基づいて職員に周知し、対応出来る様情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に現在の様子を伺い、ご本人とご家族にどのようなサービスが必要であるかを見極めの見極めを行っている。必要に応じて他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重しながら一人一人の役割を持ち、協力やお手伝い頂きながら、暮らしを共にする関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やサービス担当者会議の際、家族に本人の日常生活や行事での様子を伝えている。毎月一回家族宛てにお便りを送り繋がりを大切にすることを努めている。	家族には、3か月に1回のサービス担当者会議にできる限り参加してもらい、利用者の思いを共有したり、面会の機会としている。また、毎月お便りの送付時に担当職員が生活の様子を報告している。利用者の要望に応じて、声が聞きたい時などは電話で話せるようにし、コロナ禍においても墓参りだけは一緒に行えるように支援を行っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方々が、気軽に面会に来て頂ける環境である様努めている。知人から電話がきたり、家族への電話も希望により行っている。	利用者の希望に応じて、馴染みのスーパーなどに出掛けるなどの支援を行い、自宅に対する不安があれば、自宅近くまで見に行くなどの配慮を行っている。また、入居以前に行っていた裁縫や編み物などの得意とすることは入居後も継続して行えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者が孤立する事の無いよう、共有スペースにてレクサスや談話等を行っている。定期的に席替えをし入居者同士良い関係が築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、家族と連絡を取る事もある。相談等あれば、対応する様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話の中で、本人の思いや希望、意向を把握している。困難な時は無理強いせず本人の思いに寄り添うよう努めている。	日常の暮らしの中で全職員が対話を通じて様子を見ながら声掛けをする等、積極的に思いや希望を引き出せるように努めている。引き出した内容や気づきについては、担当職員に報告し、併せて連絡ノートに記載して共有が図れるように取り組んでいる。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、生活状況や環境、サービス利用状況等を、家族や以前利用していた事業所から聞き取りし把握している。	入居の検討にあたっては、必ず見学に来訪いただき、施設内の環境(居室が2階で階段がある)を確認してもらっている。生活歴やこれまでの暮らしについては、利用者・家族、利用していたサービス事業所等から聞き取りを行い把握している。	今後はより生きがいをもちながら暮らして行く事や、地域の中で暮らし続けることを支援していくためにも、入居以前の住まいや自室の環境、生活習慣、自宅周辺の状況、地域との関係性などの把握に努めて行く事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方や、心身状態をしっかりと見極め、記録に残したり会議、ミーティング等で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、計画作成者が中心となり情報収集を行っている。サービス担当者会議前に全職員から意見を聞き、本人や家族の要望を取り入れ、介護計画を作成している。	入居決定後に担当職員と計画作成担当者が事前情報を元に暫定計画を作成し、入居後に職員の意見を聞きながら、修正・加筆し正式な計画としている。サービス担当者会議で利用者・家族の意見を聴取し、職員と検討しながら見直しを行っている。計画には家族の役割も位置付けられている。モニタリングも担当職員・計画作成担当者が中心となり、職員の意見を聞きながら実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録用紙記入している。申し送りノートや業務日誌等で共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のや家族の状況によってホーム内だけでなく、他の事業所や区役所、地域包括にも相談しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽ボランティアが隔週で来て下さり、楽しみを持って過ごして頂いている。併設施設の行事に行参加したり、買い物に行く事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、本人や家族の思いを確認し、併設の協力病院に職員付き添いで受診している。協力病院以外の受診は家族の協力を得て、お願いしている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、現在は協力医である近隣の病院が主治医となっている。神経内科も4ヶ月に1回全員が受診している。協力医への受診については、職員付き添いの下で行い、協力医院に無い専門科については家族対応で受診している。その際は家族に状況を記載した文書を持参してもらい、適切な診察が行われるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に、併設施設の訪問看護に体調確認等をお願いしている。体調の変化や気になる事があれば相談し、アドバイスを貰い適切なケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換については、カルテや経過記録等を用いて行っている。医療機関に職員が行き細やかな連絡や相談等を行い早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、終末期に向けた方針を、書面にて家族に説明を行っている。重度化した場合は併設施設への入所の調節支援を行っている。	入居時の契約に際し終末期の対応については、「重度化した場合における対応に係る指針」を基に利用者・家族に説明し同意を得ている。利用者の個々の状態にもよるが、階段の昇降の可否、病気による痛みの発生等を確認しながら、要介護3の認定結果を踏まえて生活の場の移行を検討している。利用者・家族が不安を抱えないように、担当者会議等で状態を共有しながら、支援につなげている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に迅速な対応が出来る為には異変に気付く事も重要である。急変の際は隣接している病院へ連絡し受診に。もしくは、訪看に連絡し指示を受け対応している。	2020年度はコロナ禍にあり外部研修や法人内研修への参加がなかった。初期対応については、訪問看護師が来訪した際に指導を受けたり、事故報告書やヒヤリハット報告書をもとに検証を行って、誤薬等の対応についての実践的な対応を学ぶ内部研修を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を実施し、その後反省会や職員会議にて意見交換し、再確認や改善に努めている。地域の防災訓練に参加し協力体制を築けるよう関わりを持っている。	災害別のマニュアルの作成や、夜間想定も含めた避難訓練の実施を行っている。周囲が同法人の運営する介護施設であり、災害時には法人内での避難場所も決めている。2020年度はコロナ禍で実施できなかったが、一昨年は公園の草取り作業終了後に地域の自主防災訓練に参加しており、地域の協力体制の構築に繋がってきている。備蓄も事業所で整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げている通り一人ひとりを尊敬、尊重して接しプライドを損ねない様な声掛けを行っている。プライバシーについても十分に配慮する様努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方を尊重しながら、寄り添ったケアの実践に努めている。不適切な言葉掛けを行っていないかを常に職員間で意識をしながら、トイレ誘導や体調の問いかけなどを行っている。また、ホールでの申し送りなどの際は、利用者が特定できないように配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が居室で休まれている時や、入浴時等1対1で関わる際に本人希望や思いをゆっくりと聞く時間を取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切にし、急がせたり、焦らせる様な声掛けをする事のないよう努めている。休みたい時には居室で休んで頂く等、本人の希望に添える様支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用している化粧品や、衣類等の購入、カットや毛染め等の希望に添い支援している。その日の衣服についても本人と選ぶこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理や盛り付け、お茶入れやテーブル拭き、後片付け等一人ひとりが出来る事を職員と一緒にやっている。	利用者にとっては食事が生活の中で一番の楽しみであることを意識しながら、献立の作成や行事食、おやつ作りを行っている。屋外でのバーベキュー大会を行ったり、新年会では、一人用の餅つき機を購入して餅つきを楽しんだり、おやつではパフェづくりを行うなど、コロナ禍で外食を自粛している中でも食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎食の摂取量を把握し、毎月体重測定を行い変化を確認している。栄養面については併設施設の管理栄養士に定期的に献立の確認や指導を受けている。水分摂取の確保も同様である		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、緑茶でのうがいを行っており、必要に応じて個別に声掛けや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレを使用して頂けるよう、さり気なく声掛けを行い、不快な思いをしないよう配慮し支援している。	一人ひとりの排泄習慣を把握しており、必要な利用者には、トイレ誘導や定時のパット交換を行うなど、言葉掛けに配慮しながらトイレでの排泄を支援している。トイレでの排泄用品の備えも個人が特定できないように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防につながる献立や、おやつを提供する等工夫している。必要な方には排便表を用いて不快な思いをしないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴を基本とし対応している。入居者のその日の気分や体調によって、入浴日を変更し対応することもある。	週3回の入浴を予定しているが、利用者の体調や気分によって柔軟に対応している。利用者は、入浴時は職員とゆっくり話せる機会としても捉えており、楽しみに待っている。同性介助にも対応しており、現在入浴を敬遠する人もいない。浴室にはリラックスできるように風景写真を張ったり、入浴剤を利用する等の工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事で外出したり、受診に行き疲れが見えたりした際には、自室で休んで頂く事もある。共有スペースにあるソファでやすまれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬使用一覧表を作成し、個々の薬箱に作用、副作用を記入した用紙を貼っている。薬の変更があれば、業務日誌や連絡ノート等を活用し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、その方にあった役割や作業をお願いしている。外出や外食の行事も行い気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染予防の為買い物に行く事は自粛しているが近くを散歩したり、ドライブに出かけたりしている。	通年は日常的に食材の買い出しや周辺への散歩、利用者の希望を募って外食に出かけたり、行事計画の中では花見や水族館などへの外出が行われている。2020年度はコロナ禍で外出を自粛しているが、屋外に出ることを楽しみにしている利用者の思いを尊重し、車から降りることは制限しながらもアイスクリームを食べに遠方までドライブに出掛けたり、事業所の庭でお茶のみを楽しむなどの工夫を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に理解頂き、事務所管理となっている。本人の希望の物が購入出来る様に支援している。その際には職員と一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった時は、事務所から電話している。本人が番号を押すことが困難な時には職員が変わってダイヤルし本人に渡す等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、温度湿度計を設置し心地よく生活出来る様に配慮している。季節にあった貼り絵を飾ったり行事や外出時の写真等を飾る等して落ち着いた家庭的な雰囲気を感じて頂く様工夫している。	共用空間には食堂テーブルの他にゆっくりくつろげるソファが設置してあり、利用者は思い思いに過ごしている。居間には神棚が造られており、出窓には観葉植物や木彫りの飾り物、ぬいぐるみなどが飾られるなど、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせるように工夫されている。また、利用者が作成したちぎり絵の壁面飾りは季節ごとに取り換えて季節を感じられるようにし、手作りの大きな日めくりカレンダーからは日時を認識できるような工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階ソファがあり、テレビを見たり新聞や雑誌等を読んだりしながらゆっくり過ごせる空白となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や写真、飾り物や置物をお持ち頂き、心地よく生活出来る様にしている。	居室は洗面台と整理棚、ベッドが整備されており、他は自宅から馴染みの物を自由に持ち込んでもらっている。家族の写真や飾り物等の他にも自分で作った作品を壁面に飾り、ほっこりするようなスペースが作られている。利用者はテレビを見たり外を眺めたり居心地よく過ごせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室がわかりやすい様に表示している。居室入口にネームプレートを用いて馴染みやすい雰囲気作りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				